

今日のみことば

□ 12月10日(日) 民数記 34章

ヨシュアに率いられた民は、約束の地カナンを征服し、その土地の分割が行われた。そこで任命される者は、信仰の行為による以外のものはない。

□ 12月11日(月) 民数記 35章

レビ人は相続の地を持ってないので、神はモーセに彼らのための牧草地を用意させた。また過失によって人を死に至らせた者の逃れの町を用意させた。

□ 12月12日(火) 民数記 36章

男子がないときの相続権の問題について、女相続人を認めることしたが、問題が提示されたので、同族の男子との婚姻によるものと制限して、規定に追加された。

□ 12月13日(水) 申命記 1章

出エジプト後の40年の荒野の生活が終わり、民族の歩みを回顧しながら与えられた申命記(第2の律法という意味)です。「思いだしなさい」と語り始めます。

□ 12月14日(木) 申命記 2章

モーセの説教の中での歴史的回顧は過去の歴史において、神がいかに恵み深くあられたかを示すものであり、それゆえに信仰の告白であった。

□ 12月15日(金) 申命記 3章

勝利は神の力により、土地は神の賜物であるとの思想が明示される。モーセはカナンの地に民を導き入れたいと願ったが、神はそれを拒まれた。

□ 12月16日(土) 申命記 4章

モーセは約束の地を前にして、神がイスラエルを大きくされたものが何であるかと語った。神が常に共にいますこと。これは他の民には決して与えられなかった特権である、と。

ろ ぼ No. 1845
2017年 12月10日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 2:13

占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

今日は待降節第2主日です。大きな喜びに満ちあふれて、救い主の誕生を待つ私たちに、水を差すような出来事がありました。占星術の学者たちがイエスの誕生を祝福した直後の出来事です。自分の地位の安全を脅かす者から身を守るために、ヘロデ王は、イエス殺害の命令を出したと言うのです。その被害は周辺の子どもたちにまで及ぶことになりました。しっかり記憶しておかなければならない重大な出来事です。

東方から来た学者たちは、それぞれの贈り物を贈って、待ち望まれてきたお方の誕生を心から喜び祝いました。伝えられてきた預言の言葉を聞き、訪ねて来ました。そして約束のお方だということを確認して喜び、それぞれの国へと

帰って行きました。神さまは素晴らしい贈り物を、私たちに下さいました。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった」(ヨハ3:16)とみ言葉で聞きます。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある」(一ヨハ4:10)と告げます。どれほどの喜びが地にあふれたか。最初にこの喜びの知らせを聞いた羊飼いたちは、「見聞きしたことが、すべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」(ルカ2:20)のです。天の使いはヨセフに、「その子をイエスと名

付けなさい。その子は自分の民を罪から救うからである」(マタイ1:21)と告げました。ベツレヘムで誕生した赤子を喜び祝う言葉があふれています。そのどこから、ヘロデ王のような行動が起こってくるのでしょうか。

それは自分を第一とする者のところから起こってきます。主イエスが罪人を救うために、天から下って来られるやいなや、ヘロデ王はイエスを「捜して殺そう」とするのです。権力と富は魂にとっては危険物です。「裕福な者が神の国に入ることは何と難しいことでしょうか」(マタイ10:23)と言われました。しっかりと心得ておくべき大事です。

さらに私たちは、幼児期からさえ主イエスが「悲しみの人」であったことに注目させられるのです。世に生まれ出られるや困難が待ち構えていました。主イエスこそは、苦しみと悲しみに沈む人々の救い主です。そこには、私たちが祈り訴える困難のすべてを、受け止めることが出来るお方がおられます。天の使いは「今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主なるキリストである」(ルカ2:11)と伝えました。これがクリスマスなのです。その表も裏もすべてをひっくり返して、ナザレ人ヨセフの子として、このように生を受けられたイエスの誕生を言うのです。

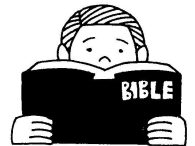
「突然、天使の大軍が加わって神を賛美して言った。『いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人あれ』」と喜びの歌声が響き渡りました。これがクリスマスの知らせです。そこにはヘロデ王の思惑を越えた、神さまの出来事を私たちは知らされ、神さまを賛美させていただきます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ルカ 1:39-56 幸いにかえられる

マリヤは天使の告知を聞き、恐れ驚きましたが、親戚のザカリヤに神さまは同じように祝福を与えられたとき、ザカリヤを訪ねました。これまで、特別な子どもの誕生の出来事の知らせを、サラは笑った。ザカリヤは疑ったと記されてきました。マリヤは素直に服従しました。

マリヤがエリサベトを訪ねたとき、エリサベトは聖霊に満たされて祝福を与えました。マリヤはその祝福を受けて、神をあがめ、賛美の歌を歌いました。この歌はしばしばマグニフィカートと呼ばれます。

神さまがこれからはなされようとしているしるしのゆえに、神さまをあがめました。この卑しいはしめを神さまは用いてくださる幸いを、彼女は「今から後、いつの世の人も、わたしを幸いな者というでしょう」と歌い、神さまの恵みを実感して神をほめ歌いました。



Read God's Word.